

外来種による水田への影響

熊本県立宇土高等学校

要旨

の研究を始めたきっかけは近年外来種が及ぼす悪影響によって日本の産業に問題を起こしているからである。その中でも、日本の農業、主に水田への影響を調べるために私達の暮らしの中でも身近な外来種であるジャンボタニシによる被害を調査するために、宇土高校周辺の水田を以下の2つの観点で調査した。

1. ジャンボタニシによる農業への損害。
2. ジャンボタニシの生態。

この2つの調査結果を踏まえて、自分たちにもできることを研究する。

1. 目的

ジャンボタニシを例にとって外来種が水田へどのような影響を及ぼすか調査する。

2. 方法

実際にジャンボタニシが生息しているところに行き調査する。
インターネットを使って外来種について深掘りする。

3. 結果



宇土の松山町でジャンボタニシを発見した。
6～7月ぐらいにジャンボタニシが大量発生していた。

被害状況

- ・1つ目は、ジャンボタニシは作物や野菜を食害し、これが農業に大きな損害をもたらすことがある。特に葉物野菜や穀物、果物などを好んで食べるため、収穫量や品質への悪影響が生じていた。
- ・2つ目は、調べ学習によるとジャンボタニシが好む湿度や温度条件を生態系内で変えることがあり、これによって他の生物の生息環境に変化が生じていた。

4. 考察

ジャンボタニシの影響を軽減するためには、効果的な対策措置を取ることが必要である。これには農業における予防策、生態系のバランスを維持する努力、環境への配慮が含まれる。また、タニシの生息状況を観測し、問題を早期に検出して対処することも大切だ。ジャンボタニシには、広東住血線虫が寄生している場合があり、また卵にも神経系の毒が含まれている。不用意に触り感染すると失明や髄膜炎、知的障害を含む後遺症、最悪の場合は死に至る可能性もある。

5. 感想

今回のポスター作成活動を通して近年の問題の中でもわたしたちにかなり身近と言える、外来種問題について調べた。調べている時にジャンボタニシだけではなく他の外来種も見つける時があり、水田へ影響を与える生物は多く、それらへの対策も同時に考えなければいけないと感じた。

6. 参考文献

https://www.maff.go.jp/j/svouan/svokubo/gaicvu/sirvou2/sukumi/PDF/leaflet_sukumi_spring_summer.pdf